



# 福島林業

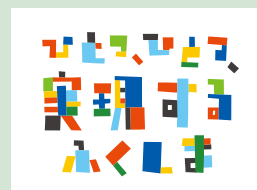
No. **725**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 小檜山善継



1

2025



監修 ■ 福島県農林水産部  
表紙の写真 ■ 作業中 です



# 復興と地方創生の 新たなステージに向けて

福島県知事  
内堀 雅 雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、パリ2024オリンピック・パラリンピックでの本県関係選手の活躍など、スポーツに関する明るい話題が続いたほか、二〇二六年春のふくしまデザインেশョンキャンペーンの開催決定など、今後の復興と地方創生を後押しする動きも数多く見られました。

また、震災と原発事故から間もなく十四年が経過する中、避難地域では、四つの町に認定された全ての特定帰還居住区域において除染・解体作業が進められているほか、県産農産物の輸出货量が過去最高を記録し、県内への移住者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となって現れてきています。

一方で、廃炉と汚染水・処理水対策を始めとした原子力災害に伴う様々な課題に加え、急激に進む人口減少など、依然として困難な課題が山積しており、長い戦いとなる本県の復興と「福島ならではの」地方創生を成し遂げるためには、今後も挑戦を続けていかなければなりません。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、令和七年度が最終年度となる第二期復興・創生期間後のステージを見据えながら、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズに的確に対応していくとともに、被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境整備などの課題に着実に取り組んでまいります。

また、人口減少対策につきましては、急激な人口減少のスピードをいかに緩やかにしていくかが重要となっており、様々な主体と危機感を共有しながら、出会い・結婚から妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた切れ目のない支援などの「自然減対策」と、県内で働く魅力を発信し、若者の県内定着・還流を図る取組や移住・定住の促進などの「社会減対策」の両面から粘り強く取り組んでまいります。

今年四月からは、PLEDCがスタートします。来年の本番に向けた機運醸成を図りながら、多くの皆様に、本県の様々な魅力と復興に向けて力強く歩み続ける福島の今を「見て」「食べて」「感じて」いただけるよう、準備を進めてまいります。

今後も、県民の皆様と共に、挑戦を続けてまいりますので、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます、新年の御挨拶といたします。

## 《も く じ》

とびら	林業アカデミーふくしま研修日誌⑧	7
復興と地方創生の新たなステージに向けて	普及指導員通信	8
福島県知事 内堀 雅 雄	森林管理署メモ	9
新春特集 林業の担い手確保・育成	公社だより	10
「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室2024～」の開催	木の文化を育む⑩	11
第9回福島県きのこ料理コンクールを開催	木材市況・ふくしま東西南北	12
	はなしのひろば・お知らせコーナー	13

新春特集

林業の担い手確保・育成

福島県林業労働力確保支援センター

◎はじめに

森林・林業白書によると、林業労働力の現状は、林業従事者数は長期的に減少傾向でしたが、平成二七年から令和二年にかけて横ばいに転じ、全国で四・四万人となっております。林業生産活動を継続させていくためには、確保が必要となっております。

また、林業従事者数を年齢階層別にみると、昭和五五年には四五から

五四歳の林業従事者が突出して多く特徴的な山型の分布でしたが、年齢階層ごとの人数差は減少し、平準化が進展しています。特に高齢者が辞めていく中で、若年層が就業していることが寄与していると考えられるとしています。

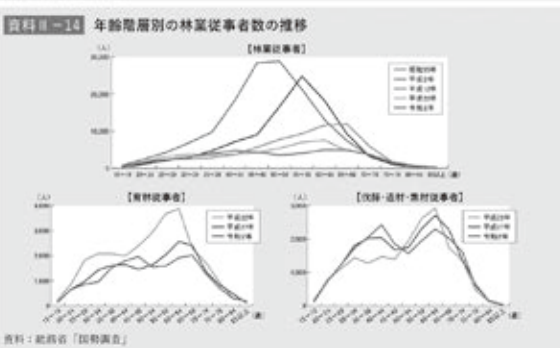
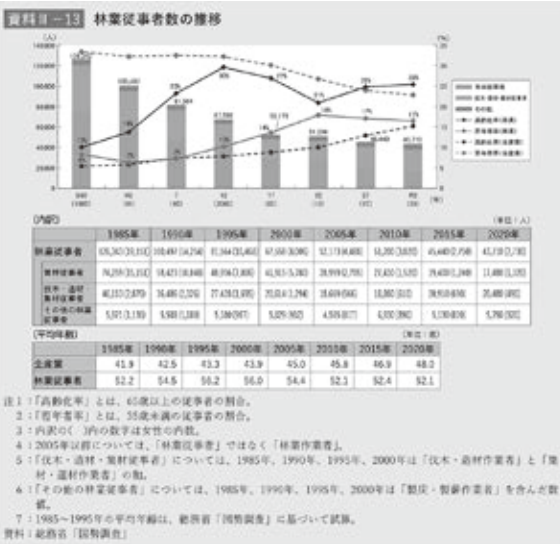
◎本県における林業労働力の現状

本県における林業従事者の推移を見ると昭和三五年度には一四、二三

六人でしたが、平成十七年度には一、七五五人まで減少しました。その後平成二二年度以降は増加に転じ、令

和二年度のデータによると二、一九二人となっております。

また、新規就業者数についても、原発事故後の森林整備事業の縮小により減少しましたが、令和五年次の林業従事者数は一一八人となりました。連続で一〇〇人以上となりました。ただ、原発事故前に比べると依然として少ない状況です。県では、新規就業者を年一四〇人以上とする目標を設定しています。

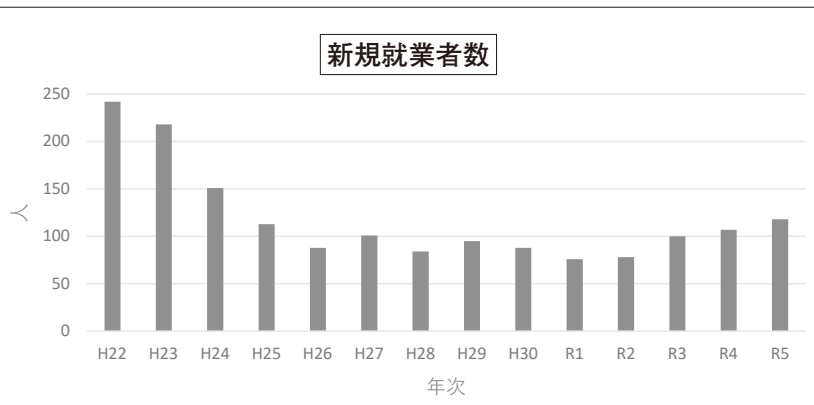


令和5年度森林・林業白書（令和6年版）

2 林業就業者の年齢階層別就業状況

年度	全国	福島県												
		総数	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	
昭和35年度	439,405	14,236	961	1,484	1,920	2,202	1,812	1,501	1,276	1,103	891	570	516	
昭和40年度	281,671	8,040	292	571	789	1,228	1,404	1,071	827	673	566	349	270	
昭和45年度	205,631	5,583	124	285	385	592	938	1,070	759	579	391	254	206	
昭和50年度	178,979	4,794	36	172	248	383	553	866	938	642	440	299	217	
昭和55年度	165,498	4,668	44	96	187	288	424	621	941	966	615	279	207	
昭和60年度	139,862	4,142	18	119	143	225	289	408	605	897	812	335	291	
平成2年度	107,500	3,307	8	60	133	136	206	280	386	596	799	424	279	
平成7年度	85,824	2,711	20	60	83	130	153	228	280	387	496	464	412	
平成12年度	67,153	2,296	17	59	90	78	124	150	232	323	330	341	552	
平成17年度	46,618	1,755	7	51	75	90	77	131	162	224	304	220	414	
平成22年度	68,553	2,181	23	84	146	161	154	214	232	371	320	331	331	
平成27年度	63,663	2,183	21	90	124	172	171	155	169	233	259	340	449	
令和2年度	60,738	2,192	10	63	127	157	203	201	193	171	240	282	545	

福島県農林水産部：令和5年福島県森林・林業統計書（令和4年度）



森林計画課資料

管内別新規採用者数

管内区分	新規採用者数(人)	
	H29	H5
県北	2	13
県中	31	21
県南	24	23
会津	23	19
南会津	1	5
相双	12	9
いわき	11	7
計	104	97

なお、当センターに報告をいただいている認定事業者からの改善措置実施状況報告書によると令和五年度の新規採用者数は、平成二九年度に比べ七人減って九七人でした。この中では、県中(二一人)、県南(二三一人)、会津(十九人)の採用者が比較的多くなっています。全体では、平成二九年度に比べ若干新規採用者が減少したため、雇用の安定確保に向けた取組を進める必要があります。当センターでも、新規就業者に対して様々な就業支援に取り組んでいきます。(具体的な取組については次号で紹介いたします。)

◎国における林業担い手対策

国における担い手対策として、林野庁でも、森林・林業担い手育成総合対策として、新規就業者等への体系的な研修、林業大学校で学ぶ就業前の青年への給付金給付、高校生の



林野庁HPより

就業や女性の活躍の促進、森林プランナーの育成、技能評価の推進、外国人材受入れに向けた条件整備、労働安全対策等の取組を推進する予算を令和七年度に向け概算要求しています。林業の振興のためには、担い手の確保・育成は重要な課題となっています。このような状況の中で、当センターは、担い手の確保・育成・定着を目的に、事業主が行う雇用管理の改善と事業の合理化ならびに就業希望者の就業促進と技能者育成の両面を平成十年四月の設立以来継続的に

◎支援センターの取組

このように状況の中で、当センターは、担い手の確保・育成・定着を目的に、事業主が行う雇用管理の改善と事業の合理化ならびに就業希望者の就業促進と技能者育成の両面を平成十年四月の設立以来継続的に

支援してきました。

現在取り組んでいる支援等については、次号のセンターだよりで紹介しますが、今回は、担い手の確保に向けた今年度の新たな取組をご紹介します。

◎今年度の新たな取組

林業担い手の確保については、これまで様々な取組等を行ってきましたが、なかなか林業の新規就業者が増加しない傾向があるのは、林業については、ほか産業に比べPRがあまり上手くなく、一般の方々の認知度が低いからだと考えられます。そこで当センターでは、今年度インターネット上のコミュニティサイト「いわゆるSNS (ソーシャルネットワークサービス) を活用した取組を行う」としました。

「林業」の認知度を高め、より多くの方々に知っていただくためには、特に若者に届けられるソースとして、SNS等をフルに活用する必要がありますと考え、当センターでは新たな取組として、①FORESTRY in FUKUSHIMAの創刊、②Instagramの運用、③YouTubeの公開、④新設ページの開設を行っています。

① FORESTRY in FUKUSHIMA の創刊

今年三月に創刊しました。昨年度一年間を通して、認定事業者四事業者の取材し作成しました。各事業者の取材では、できる限り多くの就業者の方々に出演していただき、若者が見やすいように、写真を多く用い、視覚に訴える冊子づくりが心がけました。取材に対応していただいた皆さんには忙しい中、笑顔で対応していただきました。

出来上がった冊子は、今年春に県内の各高等学校に配布するとともに、各公共施設等に設置しました。広く県民の方の目に留まっていたとことが認知度を高めることになると考



FORESTRY in FUKUSHIMA

えています。  
 今後も毎年四事業体を目安に取材し作成していく予定です。

② Instagram運用

Instagram（インスタグラム）の運用も今年十月から開始しました。インスタグラムは「写真を見る・投稿する」に特化したSNSです。投稿の検索画面では、写真や動画がメインのデザインになっています。最近では「インスタ映え」という言葉がよく耳にするのではないのでしょうか。

昨年度取材したFORESTRY in FUKUSHIMAの素材をベースに編集し、発信しています。また、今年度の取材の状況も合わせて発信し、手軽に見ていただける内容になっています。まだまだ運用が始まったばかりで認知度が低くフォローワーが少ない状況ですが、フォローワーを増やして情報を広げていきたいと思っています。皆さん、是非、「ハロー林業！」を合言葉に、フォローしていただけ



Instagram

ば幸いです。併せて「いいね」も願います。  
 (@hello\_ringyo\_fukushima)

③ YouTube公開

YouTubeは皆さんご存知のとおり世界最大の動画共有サービスです。他のSNSと比べ、ユーザーの年代が幅広く、若者を中心に五〇代以上も利用率が半数を超えているといわれています。この二三億人ともいわれるユーザー数及び年齢の幅広さを活かすため、昨年度取材した素材をベースに動画を配信しました。紙ベースでの広報だけでは、どうしても読者範囲が限定されるので、SNSを活用した取組は非常に有効と考えます。現在のところFORESTRY in FUKUSHIMAで紹介した四認定



YouTube

事業体だけの公開ですが、今後もFORESTRY in FUKUSHIMAで取材を行った事業体をベースにアップしていきたいと考えています。

④ 新設ページの開設

これまで紹介してきたように今年度の新たな取組として、FORESTRY in FUKUSHIMAを創刊、さらに、広報活動の拡充としてインスタグラムの運用開始、YouTubeの公開など様々な広報活動を行いました。これらを一元化して閲覧できる新たなページをHP上に掲載するよう現在作業を行っています。併せて、当協会のHPのトップページにバナーを追加し、新たなページにワンクリックでアクセスできるように改修を予定しています。これにより、スマートフォンやパソコンなどの様々な媒体からアクセスができ、分かりやすく一目で閲覧が容易になります。令和七年一月を目途に開設する予定です。

◎今後の広報活動の取組

林業の新規就業者を確保するためには、林業の認知度を向上させることが必要です。分かりやすい情報を手軽に見られる方法で広く公開することがその第一歩であると考えます。林業には、一般の方が気軽に入

くるのが難しい雰囲気があると思います。当センターでは、今後とも多くの方々に見ていただけるような情報の発信にさらに努めていきたいと考えています。

◎林業アカデミーふくしまとの連携

林業アカデミーふくしまは、林業の人材育成を担う基幹となる機関です。当センターでは、林業アカデミーふくしまが行う研修等を支援する取組も行っています。林業アカデミーふくしまの取組については、「林業アカデミーふくしまにおける『人財』育成の取組について」（森林と林業（二〇二四年十月号））に詳しく紹介されていますのでご覧ください。

◎終わりに

今後も、林業担い手確保・育成のための様々な情報提供を行い、福島県の林業を担う人材の確保に積極的に取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

# 「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム 「福島の森と木の親子体験オンライン教室2024」の開催

(一社) 全国林業改良普及協会 (事業受託団体)

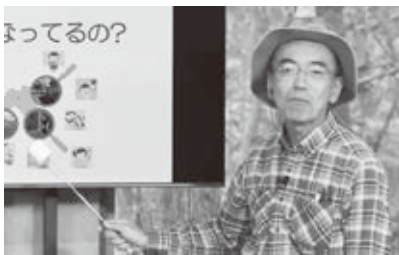
本シンポジウムは、「森林・林業再生に向けた普及啓発事業(林野庁)」により、福島の森林・林業の再生に向けて、森林内の放射性物質の動態や林業再生に向けた取組など、これまで得られた科学的知見などを分かりやすく伝える目的で二〇一四年から開催され、二〇一九年からは幅広い世代へ情報を発信するため、親子を対象に、親も子も楽しみながら体験・学習できるよう工夫して実施しています。今年度は十一月十六日に、ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」(大玉村)からライブ配信を行い、福島県・東京都を中心とした全国五〇〇組の親子等約一、三〇〇人の参加がありました。



1: キャンプ風のセット  
(配信前と休憩時に挿入)



2: 左から田人林業研究会下條氏、  
いわき市森林組合田子氏



3: 森林総合研究所篠宮氏  
(指し棒の物ボケも毎年大好評)



4: 森林総合研究所小松氏



5: (有)加茂農産加茂氏



6: 司会者の(一社)ちるる(大玉村)鈴木氏  
(木工キット紹介)



7: 会場全景

参加者は、各家庭に事前配布されたため栽培キットを約二週間前から育てながら、配信当日を迎えました。当日の配信では、①福島の森を守る、②福島の森のハカセになる(森林内の放射性物質の状況の解説)、③きのこの不思議(なめこ生産現場の解説、収穫体験等)、④森と木に親しもう(各家庭に配布した木工体験キットの紹介、森林体験施設や農林水産省E-netチャンネル内の動画コンテンツ「福島のもり応援隊」の紹介)の四つのプログラムを行いました。配信画面の背景に、窓の外の森林の景色が映りこむようにし、会場内にキャンプ風のセットを作り(写真1)、森の中で過ごす雰囲気を演出するこ

とで、「森に行ってみよう」という気持ちで喚起し、配信後に福島の森林・林業を応援するアクションにつながる工夫をしました。また、毎年チャット(YouTube上でリアルタイムにメッセージをやりとりできるツール)を使った対話を行ってきましたが、今年初めて「アンケート機能」(回答をクリックして投票。写真2は正解発表場面)を使い、配信ならではの参加型要素を強化し参加者から大変好評でした。

終了後に行ったアンケートでは、福島県外の参加者からは、「クイズも楽しく、図や映像等が子どもにも大変分かりやすかった。林業の循環について知れたのも良かった(親)」、「参加後、福島の森に遊びに行きたい」と旅行のきっかけになった(親)、「風評被害でせっかく作ったものが買ってもらえないなんてすごくつらい気持ちになった(子)」、「福島の森のためにがんばっている人がたくさんいることを知り応援したくなった(子)」等の福島を応援する声が多量に多く寄せられました。また、福島県内の参加者からは、「放射線量が下がってきて良かった(親・子)」、「学校の授業だけではわからなかった事が知れて勉強になった(子)」、「体験キットの木がいい匂いで、ふわふわでおもしろかった(子)」、「難しい話も親子で会話しながら見られた(親)」等が寄せられました。

映像等は  
こちらから  
アクセス  
アーカイブ  
コンテンツ



# 第九回福島県きのこ料理コンクールを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
福島県きのこ振興協議会

令和六年十一月十六日(土)、郡山市安積総合学習センターにおいて「第九回福島県きのこ料理コンクール本審査会」を開催しました。

同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその活用への普及啓発により、きのこ産業の振興を図ることを目的としており、福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部の後援をいただき開催しました。

応募総数は一六一点(うち高校生一〇一点、大学生五四点、一般六六)となり、最優秀賞である県知事賞は規定により一点の選出となりました。当協会が委嘱した五名の審査員に



味戸梨緒さん 県知事賞受賞作品  
「福島のしいたけソースのえのきステーキ」



調理審査

より、十月十七日に書類による一次審査を、十一月十六日には調理の実技を伴う本審査を行い、七名の方の入賞が決定しました。

全参加者が規定時間となる一時間以内に作品を仕上げました。審査員からは、参加者一人一人の着眼点がいずれも、アイデアが個人ごとに違っていたこと、アイディアが個性が入っていると感じた、生産者が一生懸命作った県産きのこを使って、その良さを引き出すようとしている努力や出来上がった料理にとってもうれしく感

じた、年々、全体的にレベルが上がっている、様々なきのこを使うことできのこを勉強して作品を作ったと思う、地域性のある野菜とその特性を生かしてきのこ料理するなど工夫されていたと評価されました。

また、地元産のきのこを念入りに調べて生産先に向いて購入するなど材料選びにおいても努力して作られた作品も多くありました。参加者の皆様の日々のきのこ料理への研鑽の賜物と察しますとともにご指導された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

入賞者のうち県知事賞を受賞した味戸梨緒さんは、令和七年三月三日に東京都で開催される第三七回きのこ料理コンクール全国大会へ福島県代表として推薦されることとなります。



記念撮影

## 受賞者一覧

	作 品 名	氏 名	職 業
県知事賞	福島のしいたけソースのえのきステーキ	味 戸 梨 緒	郡山女子大学附属高等学校
優 秀 賞	きのこの森バーガー	過 足 愛 菜	福島県立田村高等学校
	甘酒香る彩りきのこ蒸しパン	千 葉 若 菜	郡山女子大学
特 別 賞	郡山と言えばコレ!?大根もちで作るまんまるどおる	河 野 歩 乃 佳	郡山女子大学
奨 励 賞	ミラクルエリンギ～きのこあんかけを添えて～	府 中 優 衣	郡山女子大学
	きのこで菌活!!そばいもローフ	室 井 つ な 子	一般
	すっぱ辛で体を元気に!きのこたっぷり酸辣湯	飛 知 和 希 美	郡山女子大学

# 林業アカデミーふくしま研修日誌 ⑧



研修が始まってから八ヶ月目の十一月は、森林作業道作設の一連の流れを学びました。

## ○十一月の研修内容

### 「つる切り、除伐、枝打ち等」

福島県北森林組合に講師をお願いし、十三〜十四年生のスギ林の枝打ち実習を行いました。無節の材を作るために行う枝打ちですが、作業後は林内がすっきりとし、今後の作業もしやすくなりました。

### 「玉掛け技術」

ワイヤーを使った木材の荷掛けに必要な玉掛け技能講習を受講しました。安全な作業をするため、吊り上げる荷の重さとそれに耐えうるワイヤーの選定を学びました。

### 「縦断・横断測量」

### 「林内路網（踏査実習）」

森林作業道を設計するための縦断・横断測量について、一週間かけて学びました。山の傾斜や土砂の切り盛りなど道を通すために必要な知識をもとに、図面上で路網の設計を行いました。その後、現地踏査で実際の山の傾斜や土質などを確認し、

現場に出ないと分からない要素がたくさんあることを実感しました。

### 「チェーンソー伐木造材技術」

混み合った林内における、間伐と造材実習を行いました。間伐では多くが掛かり木になってしまい、チルホールを使った掛かり木処理も行いました。造材では、丸太にかかる圧力が上側か下側か予測できずにチェーンソーのバーが挟まれることが多々あり、研修生達は現場作業の難しさを実感していました。

### 「林内路網（森林作業道作設実習）」

埴町実習フィールドで作業道の作設実習を行いました。両脇に立木があり作業範囲が限られる実践的な環境で、表土のすき取り、心土の掘削、転圧などを行いました。

### 「架線集材」

路網整備が困難な奥地林や急傾斜地において有効な架線集材作業の実施に必要な林業架線作業主任者免許規定に定められた講習が十一月二五日から始まりました。講習は全十五日間に及び、十一月は架線の基本的な知識を学びました。今までの資格に比べて覚えることが遙かに多

く、早々に苦戦していました。

## ○研修生の感想 松澤ななさん

入講して、気づけばあっという間に八か月も経っていました。毎日が充実しているからそのように感じるのだと思います。さまざまなカリキュラムを学んでいくうちに、林業は奥が深く幅広いものだと感じることができました。また、現場で実習する機会が増え、体で覚えることが多く、技術を習得することの楽しさを常日頃感じていきます。チェーンソーのみならず、バックホーや高性能林業機械等の重機での運転操作もさせていただき、身になっていると感じています。

十一月初めに行われた枝打ちの実習では、丁寧な手作業で枝を落とす



枝打ち後の林内の様子

この大切さを学びました。チェーンソーで枝を処理することで発生してしまう断面のざらつき、これは商品の価値に影響が出てしまうことから、時間をかけてでも手ノコで綺麗に落とすものだと教えていただきました。

作業道作設実習に向けてのバックホー操作実習では、必要な掘削、鋤取り、転圧等の基礎技術の向上に努めました。作業道の妨げになる伐根を処理することができた時の嬉しさは忘れなれないと思います。初めて操作した頃を思い出すと、かなり上達していると感じています。残された時間は、足早に過ぎ去ってしまうものなので、まだまだ自分に不足している面を補い、有意義な時間にしていきます。



チルホールでの掛かり木処理



# 3Dモデルを用いた 安全な伐採作業の取組

福島県県北農林事務所

林業普及指導員 石井達也

## 1 はじめに

林業は日本の自然環境を支える重要な産業ですが、その作業環境は厳しく、労働災害が多いことで知られています。労働災害の発生件数は、関係者による災害防止活動の展開などの努力により減少傾向にありますが、労働者1,000人当たりの死傷者数を示す「年千人率」は全産業の中で依然として最も高い水準にあります。特に伐採作業では、「かかり木」に対する誤った処理方法の選択や「伐倒木の方向ずれ」など、知識や技術の不足、作業員の判断ミスが重大な危険要因となっています。令和6年11月には、福島県で令和4年度以来となる林業労働死亡災害が発生し、改めて安全対策の重要性が問われています。

## 2 取組内容

これまでの林業労働安全教育は座学や現場での実地訓練が中心でしたが、これらの方法では、実際の作業中に直面する複雑な危険を十分に再現することが難しく、隠れた危険要因を的確に伝えることは容易ではありません。そこで私は、3Dモデルを活用した新たな安全対策手法を導入し、多くの林業普及指導員がこのシミュレーションを活用できるよう、研修会を実施しました。

この取り組みでは、伐採作業を3Dモデル上でシミュレーションすることで、安全な作業方法を視覚的に確認できる環境を整えました。たとえば、木の倒れる方向や周囲の地形との関係を再現することで、どのような条件下で危険が発生しやすいかを分析できます。また、伐倒後の木の状況を再現することで、地形に応じた玉切りや枝払い作業の留意点についても詳細に確認することが可能です。このシステムは、作業員の教育ツールとしても有用であり、視覚的情報を活用することで、従来の方法では伝わりにくかったリスクや安全対策を直感的に学べる環境を提供します。

実際の研修では、県営林内のアカマツ危険木伐採現場をモデル化し、伐倒木の重心方向や林内の開放状況を考慮した合理的な伐倒方向のシミュレーションを実施しました。また、人家などの保全対象を保護するために、伐倒方向を正確に定めるチルホールによる牽引作業のシミュレーションも行いました。その結果、伐倒木が地形変化点に衝突した際の幹折れの危険性や、急斜面での伐倒木の滑落リスクなど、具体的な危険要因を洗い出し、それに対する対策を十分に検討することができました。参加した指導員からは「視覚的にリスクが分かりやすく、現場での活用に期待できる」と評価をいただきました。

## 3 今後の取組

今後は、現場での安全指導は基より、伐木造材作業員に対し、この3Dモデルを活用した手法を通じて「危険を予知する力」の普及に努め、林業全体の労働災害を減少させ、より安全で持続可能な産業基盤を構築することを目指します。他の普及員とも連携し、この取組をさらに拡大していきたいと考えています。

## 4 おわりに

林業は地域経済や環境保全において重要な役割を果たす一方、高いリスクを伴う産業です。そのため、技術革新を活用し安全性を向上させる取組を進めることは極めて重要であると考えます。今回の3Dモデルによる安全対策の検証を一つのステップとして、関係者の皆様とともに安全な作業環境を実現し、林業に携わるすべての方々の安全を守りながら業界全体の発展に寄与できるよう努めてまいります。



林業職員研修の様子

モト管理署森林

浜通り地区市町村の  
森林整備等の取組に  
ついて報告

関東森林管理局磐城森林管理署では、毎年、管内（浜通り地区）の国有林野が所在する市町村長の皆様に参加いただき、「浜通り地区国有林野等所在市町村長有志協議会」を開催しております。令和六年度は十月二十九日に双葉町産業交流センターにおいて開催し、浜通り地区の十三市町村、福島県、関東森林管理局、森林放射性物質汚染対策センター、磐城森林管理署の関係者が一堂に会し浜通り地区の森林行政について話し合いました。



挨拶をする代表世話人

震災・原発事故以降、浜通りの森林は放射線量への不安、担い手不足など大きな課題を抱えておりますが、九月の飯館みらい発電所の開業や、木環（こわ）の杜（もり）による四



倉工場の建設計画など浜通りの林業にとって明るいニュースもあります。本日は活発な議論、情報交換をお願いいたします。」とあいさつがありました。

○国有林野事業の運営等について  
関東森林管理局からは、①合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）の改正について②森林環境贈与税の使途の公表について③令和七年度林野庁関係予算概算要求概要、国有林の森林放射性物質汚染対策センターからは放射線放射性物質汚染対策センターから森林放射性物質汚染対策センターに係る取組について、磐城森林管理署からは森林整備事業、林業の成長産業化への取組、林産物の安定供給への取組、再生可能エネルギーへの対応、治山事業による災害に強い山づくりの取組等の情報提供がありました。

○市町村の取組について  
協議会に参加した各市町村長等からはふくしま里山再生事業の実施状況、森林環境贈与税の使途について、村内の木質ペレット製造工場の新規造成についての紹介や飯館みらい発電所の稼働状況などの情報提供がありました。

浜通りの森林行政については、放射線の影響など、他の地域にはない大きな課題もありますが、今後も民間連携して取り組んでまいります。



○福島県からの支援について  
福島県における再造林への支援制度について情報提供がありました。

○意見交換について  
事前質問を含めて、治山事業の継続、立木販売の実施、ふくしま森林再生事業の継続、林道の維持修繕等について意見がありました。

団体のページ

公社だより

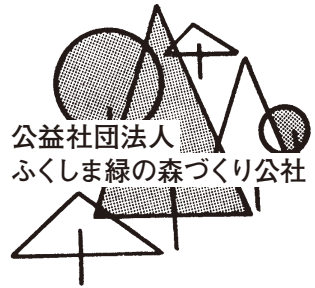
「森林を活用した脱炭素  
社会の実現に向けた連  
携協定」を締結

十一月十八日に(公社)ふくしま緑の森づくり公社の佐藤理事長とENEOS(株)の志賀常務執行役員による調印式を行いました。



佐藤理事長(左)と志賀常務執行役員(右)

本協定は、公社が管理する分収造林契約地において、温室効果ガス



(CO<sub>2</sub>) 吸収能力を活用した脱炭素社会の実現に向けた活動を行うことを目的とし、会津地域の約一〇、〇〇〇haを対象に、令和七年度から令和十六年度まで(十年間)の森林管理プロジェクトを登録してクレジットの認証を受けるものです。

CO<sub>2</sub>吸収量は年間約四〇、〇〇〇ト、十年間合計で約四〇〇、〇〇〇トを見込んでおり、ENEOS(株)では東北初の協定締結であるとともに、過去最大規模の吸収量を見込んでおります。

今後、プロジェクト期間における施業・保護の計画やCO<sub>2</sub>吸収量の見込みなどを算定したプロジェクト計画書を作成しプロジェクト登録を行い、令和七年度から航空レーザ計測データの分析などのモニタリング調査を実施し、早期のクレジット

認証を目指してまいります。

本取組によって、地球温暖化対策に寄与するとともに、創出したクレジットはENEOS(株)へ売却し、その収益を森林整備に活用することで、適正な森林の管理と森林資源の充実を図ってまいります。

トピック

間伐材のクリスマスツリーを  
展示しました

当公社では、十二月十二日から二十五日まで、福島県自治会館一階エントランスホールにおいて、毎年恒例となっている間伐材を有効利用したクリスマスツリーを展示しました。



今年はスギを使い、皆さんに楽しんでいただきました。



※協定及び調印式の概要は、当公社HPで公表しております。  
(URL : <https://www.fuku-rin.jp/>)

木の文化を育む⑦

暮らしを彩る木の道具〜心地よいライフスタイルの創造〜  
(ナカヤマ木工舎)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

〇はじめに

「居心地がいい空間」や「楽しい時間」は精神的な満足度につながります。人々の価値観が多様化する今日、それぞれの価値観を尊重し、心の充実感を得ることで、日々の暮らしが豊かに心地よいものになります。幸せの感性を磨き、理想のライフスタイルを創造することが生活のモチベーションとなり、ポジティブな気持ちを育みます。

〇木の魅力をカタチに

ナカヤマ木工舎（伊達市保原町）の中山保仁さんは建具職人として働く伯父の姿を見て育ちました。幼い頃から職人さんと接する機会が多く、見様見真似で仕事を手伝えることもあった中山さんは、モノを創作したり絵を描いたり、自然の中で遊びながら木の良さや温もりに触れ、木を身近に感じて育ちました。「とにかく木が好き、創り出す事も好きです」と中山さん。幼少期からの環境



が中山さんのモノを創造する知恵や力となっています。こうした生い立ちを経て、家具職人となった中山さんは、今から二八年前に独立し、木の家具やスプーン、器などの制作販売を始めました。二〇二〇年には屋号「berry」改め「ナカヤマ木工舎」として、シンプルで飽きのこない日常使いの木のスプーンや器を手仕事で制作しています。特別ではない平凡な日常を楽しんで生活するための一助になれば、という想いで「食事

が楽しく美味しく感じるよう、そして手入れもラクな生活道具を作れたらと思います」と中山さん。国産の山桜を中心に制作した、センス溢れる木製家具や器、カトラリー、オブジェには、シンプルで軽やかな木の良さを生活道具として届けることで使い手の生活の手助けになれば、という願いが込められています。

「難しい仕事を生業にしたと悩むこ

ともあります。でも、好きが一番だと信じています」と中山さん。制作する木の道具は、どのアイテムも手に馴染む優しいフォルムで丁寧な仕上げられています。その作風は中山さんの人柄が表れているようです。

〇心地よいアトリエ

中山さんは福島市にある倉庫をセルフリノベーションし、アトリエとして活用しています。リノベーションにより美しく生まれ変わった空間は中山さんの温かみのある作風を引き立て、魅力ある世界観を演出しています。

〇愛着が湧く暮らしの道具

中山さんは個展や木工ワークショップをとおして、道具に対する愛着や人とのつながりを育んでいます。木製品のお直し会では、ワークショップで制作したスプーンや中山さんが制作した木製品の愛用者を対象に補修を行います。木の道具の擦り減りは、使い手の癖を理解して補修し、木製品の経年変化の良さや大切に道具を育てる楽しさを伝えていきます。中山さんの制作したスプーンは小さな子どもが手放せなくなるほどの使い心地です。

〇日本野草・野鳥好きの会

中山さんは福島市の里山にある

小鳥の森を散策し、定期的にバードウォッチングを楽しんでいます。四季折々の美しい山野草や風景を満喫し、移ろいゆく里山の四季を感じながら心地よい時間を過ごします。身近な自然は健やかな心と豊かな感性を育みます。

〇まとめ

日々の暮らしを心地よく過ごすため、中山さんは理想のライフスタイルを創造し新たなプロジェクトを構想中です。中山さんの魅力ある世界観を貴方もぞいてみませんか。



日本野草・野鳥好きの会にて野鳥探訪



木製品のお直し会

## 県森連いわき共販における木材市況（12月分）

令和7年1月1日  
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

素 材						
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5		
		10~13	14.0	13.5		
		24上	13.9	12.5		
	3.65	16上				
		24上	13.2	12.0		
	3.00	9下	10.2	8.0		
		10~13	10.5	10.3		
		14~16	13.8	13.0		
		18~20	17.6	16.0		
	6.00	22上	17.6	16.0		
16~20		15.3	15.0			
2.00	16上	7.5	6.0			
ヒノキ	4.00	10~13				
		14~16				
		18~20				
		22上				
3.00	16~20					
アカマツ	4.80	18~22				
	4.00	18~22	12.0	11.5		
		24上	12.0	11.5		
	3.00	16~22	12.0	11.5		
		24上	12.0	11.5		

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
ク リ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モ ミ	4.00	20上			

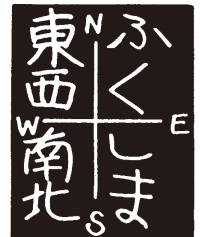
市況概要と市況展望	1月の共販日
<p>販売量は1,925㎡（前年同月比84%）でした。 市況は、前月同様スギ3m柱材、中目材、4m中目材等、活発に取り引きされ年内最後の市を終えることができました。来年もこの状況が続くことに期待したいですが、価格は上げ止まりの状態だと思われまます。製品の動き等が活発になることに期待したいです。 ※スギ4m中目材が不足しておりますので、造材方よろしくお願ひ致します。</p>	<p>7日(火) 17日(金) 27日(月)</p>

行 事 と お 知 ら せ
<p>1月7日(火) いわき木材流通センター 初市</p> <p>県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。</p> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="福島県森林組合連合会 木材市況"/> <input type="button" value="検索"/> </p>

いわき市内郷白水町にある県内唯一の国宝建築物、白水阿弥陀堂において、十一月期間限定でイベント「アミダナイト二〇二四」が開催されました。

白水阿弥陀堂・堂内において、プロジェクションマッピングによる演出で、壁や柱、天井に極彩色の美しい文様や絵が建立当時さながらに再現されたほか、境内では、およそ九〇基の照明が赤く色づいたもみじや樹齢およそ四〇〇年のイチヨウを照らしました。お堂を囲む池の水面にはライトアップされた木々が映りこみ、その美しい光景を観に、イベント期間中はたくさんの方の参拝者であふれていました。

イベント会場となった阿弥陀堂は平安時代末期に建立され、木造であることはもちろん、その屋根は薄い板を重ね合わせた板葺の一種「とち葺」が用いられています。昔の寺社仏閣に見られるヒノキの樹皮を用いた檜皮葺は全国的にも有名ですが、とち葺は、東北地方においては比較



### 「国宝でアミダナイト」

福島県いわき農林事務所 小池陽子

的多く用いられた板葺の種類だそうです。

暗闇に浮かぶアミダナイトの白水阿弥陀堂はまさに極楽。とち葺の屋根の美しい曲線と光に浮かびあがる紅葉の木々、来年のアミダナイト二〇二五の開催を祈って、みなさまもいわきの名所を訪れてみてはいかがでしょうか。



水面に映る白水阿弥陀堂

はなしの  
ひろば

国旗

今年「巳年」である。巳（へび）が冬眠から目覚め、地上に這い出すことから「新しい種子が生まれる」という意味があり、「起点」の年ともいわれる。たとえば、「昭和元年」を起点としたら、今年「昭和一〇〇年」である。昭和生まれの筆者が小さい頃、元日や、国民祝日には、どの家の前にも日本の国旗が掲げられていた。あの当時、当たり前だったその光景は、今にして思えば壮観だった。元日の新しい風に翻る国旗が青空に映える様は、まさに歳神様をお迎えし、新しい年をみんなでお祝いする光景だった。ところで、この国旗だが、明治三年に商船規則で国旗のデザインや規格が定められ、一月二七日が国旗制定記念日となっている。国旗の赤は、太陽の象徴で博愛と活力、白は、神聖を意味するという。

しかし、現在、その翻る光景も見当たらなくなってしまったが、年が新しくなったというだけで、違う空気感を感じる。昨日の今日というのに、どこか清々しい大気ではないか。我が家の庭も、落葉した桜の葉で一面覆いつくされているが、元日には、不思議とその枯れ色一面に生命の潤いを感じるのがある。あの時代に翻っていた国旗にも、現在の生命の潤いにも「新しい種子が生まれる予感」がする。一日一日は長く感じる時もあるが、いち年は、毎年、毎年あつという間に過ぎていく。だから「いい予感」がしたら絶対見逃す手はない。必ず実（巳）を結ぶ年でありたいと願っている。

第一四〇話（都）

表紙の写真



「作業中です」

第21回ふくしま森林・林業写真コンクール  
最優秀賞(福島県知事賞)  
受賞者 門林泰志郎さん(いわき市)  
撮影場所: 古殿町  
コメント: 高層作業。ご安全に〜。

編集

福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会  
福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合  
ふくしま緑の森づくり公社

森林研究整備機構福島水源林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会

(福島市中町五番一八号県林業会館内)

飯沼隆

発行人 飯沼隆

発行 飯沼隆

陽光社印刷株式会社

(定価 一〇〇円)

お知らせコーナー

第49回福島県児童・生徒木工工作コンクールの表彰式を開催

福島県木材青壮年協会では、子ども達の想像力を伸ばし、木をもっと身近なものにしてもらいたいとの思いから、児童・生徒木工工作コンクールを開催しています。

表彰式は、令和6年11月23日にいわき市で行われました。上位15作品の入賞者と来賓をお迎えし、約50人が出席、入賞者には、賞状と木青協オリジナルの県産木材の楯が授与されました。

来年はいよいよ50回目となる木工工作を通じて、多くの子ども達が「木」に触れ、感受性や創造性に富んだ社会人に成長してくれること、そして将来温もりある社会を築いてくれることを願い、子どもから大人まで多くの人を巻き込んで皆さんで「木」の可能性を考えていきたいと思っております。(一般財団法人福島県林業会館「フォレスト協賛金」を活用しています。)



入賞者の皆さま



○最優秀作品 福島県知事賞  
第1部 「ツバメのおやこ」  
いわき市立小名浜第三小学校  
2年 松本 雅



○最優秀作品 福島県知事賞  
第2部 「木の影にかくれるシロサギ」  
いわき市立泉小学校  
6年 井上 生輝

# 備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たまちい

◆福島県森林組合連合会  
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

イワフジのGPシリーズ  
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI  
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全回転ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-CAN コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



( 仙台支店 ) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6  
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699  
( 本社・工場 ) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1  
( 支店 ) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



# 東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245  
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC  
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破碎径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ  
排気量 39.1cc

GZ4350EZ  
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

## (有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1